

**明治安田生命 「家計」に関するアンケート調査を実施！
実感なき景気回復！？家計に余裕ができたと答えた人はわずか8.0%！**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、新生活のスタートにあわせ、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 家計の管理とおこづかい

■**個人消費の回復はまだ遠い！？おこづかい額は調査開始以来最低の「25,082円」！**

当社チーフエコノミスト小玉 祐一がおこづかい額について分析！

- ・夫とのランチ格差はさらに拡大！ 妻のランチ代は、調査開始以来最高！
- ・子どもに毎月おこづかいをあげる派？あげない派？
おこづかいをあげる派は約5割！ おこづかいの平均額は「2,730円」！
- ・仕事も家庭も互いに自立！？フルタイムの共働き夫婦の約3割が家計を別々に管理！

2. 貯蓄とへそくり

■**貯蓄額でも世代格差が！約2割が貯蓄額0円！貯蓄額は、平均「1,274万円」！**

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が貯蓄額について分析！

- ・投資への意識は低い！？貯蓄方法は、「銀行預金・貯金」が大半！
- ・へそくり金額は、全体で約17万円の減少！
妻のへそくり金額は、夫の約1.7倍！家計を管理する女性が多く貯めている結果に！

3. お金に関する意識

■**実感なき景気回復！？家計に余裕ができたと答えた人はわずか8.0%！**

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が家計の状況について分析！

- ・家計に余裕がなくなった理由は、日用品・食料品等の支出増加が最多！
- ・節約意識を持っている人は全体の約8割！節約方法は、手軽にできることを中心に！
電力会社の変更や携帯会社の変更は、それぞれ約1割にとどまる！
- ・節税対策には、ふるさと納税が人気！保険商品やNISA等も人気！
- ・持ち歩く金額にも男女間の差が！持ち歩く金額平均は「15,591円」！

4. 働き方とお金

■**日々の生活で精一杯！？現在の給与に満足している人はわずか14.4%！**

- ・貯蓄への意識は強い！給与に満足していない理由は、「貯蓄をするお金がないから」がトップ！
- ・低所得層の増加が一因か！？20代男性の約4人に1人が副業をしていると回答！
- ・「収入の壁」は女性活躍の壁！？「一方がパート」の家庭は、約2人に1人が「収入の壁」を意識！「収入の壁」がなければ、約200万円の年収を希望！

対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2017年4月3日(月)～4月10日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,618人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
男性	134	136	135	134	133	135	807
女性	134	134	137	136	132	138	811
計	268	270	272	270	265	273	1,618

【 目 次 】

1. 家計の管理とおこづかい

- (1) 夫婦のおこづかい 4 ページ
- (2) 夫婦のランチ代 6 ページ
- (3) 子どものおこづかいとお年玉 7 ページ
- (4) 夫婦の家計管理 9 ページ

2. 貯蓄とへそくり

- (1) 貯蓄額と貯蓄の目的 10 ページ
- (2) 貯蓄の方法 12 ページ
- (3) へそくり金額とへそくりの目的 13 ページ

3. お金に関する意識

- (1) 家計の状況と理由 15 ページ
- (2) 節約意識と節約方法 18 ページ
- (3) 節税意識と節税方法 20 ページ
- (4) 持ち歩く金額 21 ページ

4. 働き方とお金

- (1) 給与の満足度と理由 22 ページ
- (2) 副業と副業をする理由 23 ページ
- (3) 夫婦の収入の壁と理想の収入 25 ページ

1. 家計の管理とおこづかい

(1) 夫婦のおこづかい

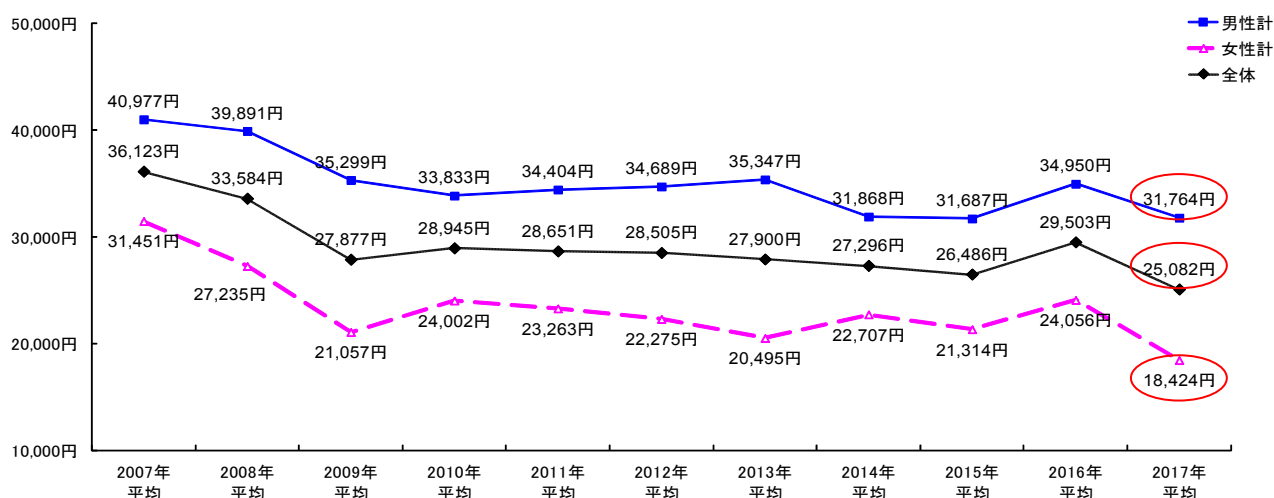
個人消費の回復はまだ遠い！？ おこづかい額は調査開始以来最低の「25,082円」！

- 夫婦のおこづかい（月に自由に使えるお金）の金額について聞いてみました。
- 全体の月平均額は、昨年から4,421円減少し、2007年の調査開始以来最低の「25,082円」となりました。夫婦別では、夫は昨年から3,186円減少し「31,764円」、女性は5,632円減少し「18,424円」でした。2016年2月に日本銀行がマイナス金利を導入し、2%の物価上昇をめざしていますが、その鍵を握る「個人消費」は、本調査結果を見る限り、まだまだ回復への道のりは遠いようです。
- また、希望するおこづかい金額を聞いてみたところ、夫は「45,750円」と実際の金額と約1万4千円の開きが、妻も「28,670円」と約1万円の開きがありました。夫婦ともに希望するおこづかい金額と現実との差は大きく、日々節約を余儀なくされている方が多いようです。

（※）節約意識と節約方法については、18ページに掲載

Q. 月に自由に使えるお金はいくらですか（金額回答）※20代～50代調べ

【おこづかい金額の推移】



～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●夫婦のおこづかいについて

夫婦のおこづかいは、6年ぶりに増加した2016年から一転、調査開始以来最低額を記録するという厳しい結果となりました。2月の完全失業率が22年ぶりに2%台まで低下するなど、雇用需給は引き締まっていますが、人口減少もあり、先行きの成長期待が持ちにくいことから、多くの企業は賃上げに慎重です。また、依然として求人が非正規社員に偏っていることも影響しているかもしれません。

【おこづかい金額の詳細】

	回答者数 (人)	0円 (%)	~5千円 (%)	~1万円 (%)	~2万円 (%)	~3万円 (%)	~5万円 (%)	~10万円 (%)	10万円超 (%)	平均 (円)
全体	1080	11.4	10.5	16.3	19.6	19.8	15.8	5.6	0.9	25,082
男性計	539	7.1	5.9	8.7	20.0	25.8	22.8	8.3	1.3	31,764
20代	134	5.2	7.5	11.2	21.6	29.9	17.9	6.0	0.7	28,907
30代	136	11.0	8.8	9.6	23.5	28.7	13.2	4.4	0.7	24,305
40代	135	6.7	3.0	3.7	21.5	31.1	24.4	7.4	2.2	33,741
50代	134	5.2	4.5	10.4	13.4	13.4	35.8	15.7	1.5	40,201
女性計	541	15.7	15.0	23.8	19.2	13.9	8.9	3.0	0.6	18,424
20代	134	21.6	18.7	20.1	20.1	12.7	6.0	0.7	-	13,414
30代	134	17.9	15.7	24.6	20.9	10.4	6.7	3.7	-	15,649
40代	137	13.1	14.6	26.3	19.0	14.6	8.0	3.6	0.7	19,448
50代	136	10.3	11.0	24.3	16.9	17.6	14.7	3.7	1.5	25,063

Q. 1カ月に希望するおこづかい金額はいくらですか（金額回答）※20代～50代調べ

	回答者数 (人)	0円 (%)	~5千円 (%)	~1万円 (%)	~2万円 (%)	~3万円 (%)	~5万円 (%)	~10万円 (%)	10万円超 (%)	平均 (円)
全体	1080	5.5	6.9	13.6	15.6	19.8	24.4	12.0	2.1	36,512
男性計	807	4.2	2.5	5.9	12.3	23.2	33.3	15.5	3.1	45,750
20代	134	3.0	6.7	3.7	16.4	29.1	26.9	10.4	3.7	41,429
30代	136	7.4	2.9	8.1	7.4	27.9	33.8	10.3	2.2	40,702
40代	135	3.0	1.5	3.0	11.9	18.5	45.2	14.1	3.0	48,007
50代	134	3.0	3.0	6.0	7.5	11.9	29.9	35.1	3.7	57,668
女性計	811	5.3	8.4	19.1	21.7	19.1	17.6	7.4	1.4	28,670
20代	134	8.2	14.2	22.4	20.1	16.4	12.7	5.2	0.7	22,390
30代	134	5.2	10.4	21.6	24.6	19.4	11.9	6.7	-	23,537
40代	137	5.8	10.9	24.1	19.0	15.3	18.2	5.1	1.5	26,404
50代	136	8.1	5.1	19.9	18.4	19.9	16.9	9.6	2.2	32,099

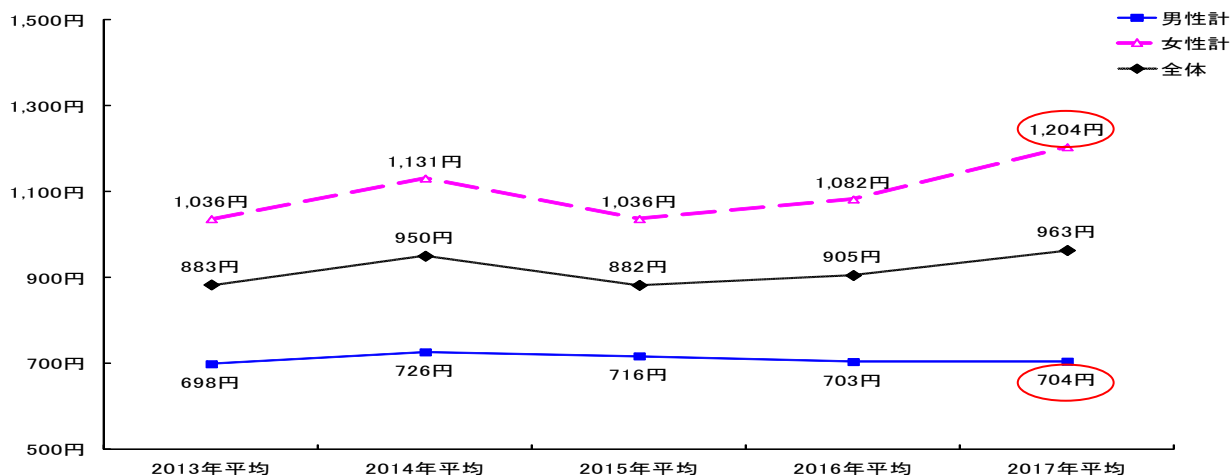
1. 家計の管理とおこづかい
 (2) 夫婦のランチ代

夫とのランチ格差はさらに拡大！ 妻のランチ代は、調査開始以来最高！

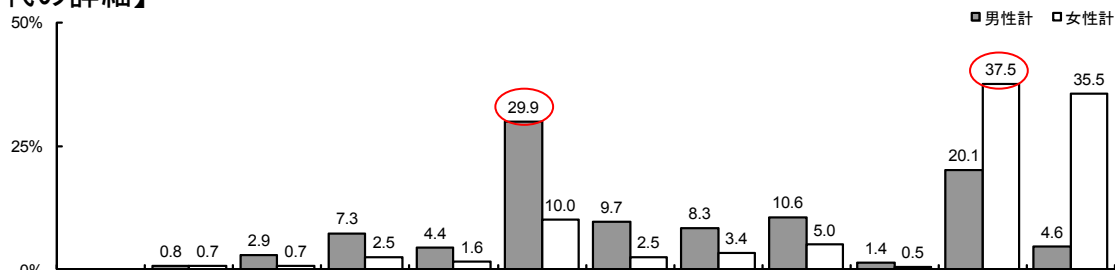
- 夫婦それぞれの平日のランチ代について聞いてみました。
- 夫は「500円台」(29.9%)が最多で、平均金額は、昨年からほぼ横ばいの「704円」となりました。一方、妻は「1,000円～1,500円未満」(37.5%)が最多で、平均金額は大きく増加し、2013年の調査開始以来最高の「1,204円」と、夫の約1.7倍の金額となっています。
- 夫婦間のランチ格差は大きく広がっており、夫には少し寂しい結果となりました。

Q. 平日のランチ代は1回いくらですか

【ランチ代の推移】



【ランチ代の詳細】



回答者数	1円～100円未満	100円台	200円台	300円台	400円台	500円台	600円台	700円台	800円台	900円台	1000円～1500円未満	1500円以上	平均	
(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(円)	
全体	1076	-	0.7	1.8	4.8	3.0	19.6	5.9	5.8	7.7	0.9	29.1	20.6	963
男性計	518	-	0.8	2.9	7.3	4.4	29.9	9.7	8.3	10.6	1.4	20.1	4.6	704
20代	90	-	2.2	4.4	5.6	8.9	31.1	7.8	4.4	7.8	2.2	17.8	7.8	704
30代	94	-	1.1	4.3	12.8	2.1	35.1	14.9	5.3	8.5	1.1	11.7	3.2	628
40代	91	-	-	-	9.9	7.7	37.4	9.9	13.2	9.9	1.1	9.9	1.1	610
50代	93	-	1.1	4.3	6.5	4.3	30.1	10.8	6.5	14.0	-	21.5	1.1	673
60代	63	-	-	3.2	6.3	3.2	27.0	7.9	15.9	7.9	-	23.8	4.8	741
70代	87	-	-	1.1	2.3	-	17.2	5.7	6.9	14.9	3.4	37.9	10.3	891
女性計	558	-	0.7	0.7	2.5	1.6	10.0	2.5	3.4	5.0	0.5	37.5	35.5	1,204
20代	82	-	2.4	1.2	2.4	3.7	17.1	1.2	1.2	6.1	-	46.3	18.3	963
30代	101	-	1.0	1.0	4.0	1.0	13.9	1.0	5.0	5.0	-	40.6	27.7	1,050
40代	101	-	-	1.0	3.0	2.0	9.9	1.0	3.0	5.0	2.0	42.6	30.7	1,135
50代	73	-	-	1.4	2.7	1.4	13.7	5.5	4.1	6.8	-	38.4	26.0	1,117
60代	88	-	1.1	-	2.3	2.3	3.4	8.0	6.8	3.4	1.1	29.5	42.0	1,272
70代	113	-	-	-	0.9	-	4.4	-	0.9	4.4	-	29.2	60.2	1,580

1. 家計の管理とおこづかい

(3) 子どものおこづかいとお年玉

子どもに毎月おこづかいをあげる派？あげない派？
おこづかいをあげる派は約5割！おこづかいの平均額は「2,730円」！

- 子どものおこづかいとお年玉について聞いてみました。
- 子どもにおこづかいを毎月あげている家庭は、全体で55.7%と約5割という結果となりました。内訳では、「小学生（6～11歳）」（41.4%）、「中学生（12～14歳）」（67.0%）、「高校生（15～17歳）」（77.0%）という結果となり、小学生でおこづかいをあげている家庭は半数以下であることがわかりました。
- おこづかいの平均額は、全体で「2,730円」という結果となりました。内訳では、「小学生」が「1,079円」、「中学生」が「2,266円」、「高校生」が「5,072円」という結果となり、小学生から進学するごとに2倍程度に増やしていく家庭が多いようです。
- また、子どもにお年玉をあげている家庭は、全体で73.7%と約7割の家庭でお年玉をあげている結果となりました。内訳では、「小学生」（72.9%）、「中学生」（73.9%）、「高校生」（75.4%）という結果となりました。
- お年玉の平均額は、全体で「8,697円」という結果となりました。「小学生」が「7,455円」、「中学生」が「8,752円」、「高校生」が「11,313円」という結果となり、子どもの夢の大台「1万円」に乗るのは、「高校生」になってからが多いようです。

Q. 子どもに毎月おこづかいをあげていますか

	回答者数 (人)	あげている (%)	あげていない (%)
全体	521	55.7	44.3
小学生(6～11歳)	280	41.4	58.6
中学生(12～14歳)	115	67.0	33.0
高校生(15～17歳)	126	77.0	23.0

Q. 子どもに毎月おこづかいをいくらあげていますか

	回答者数 (人)	～1千円 (%)	～3千円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	2万円超 (%)	平均 (円)
全体	290	26.9	13.1	10.7	4.6	0.4	-	2,730
小学生(6～11歳)	116	36.1	3.2	0.7	1.4	-	-	1,079
中学生(12～14歳)	77	29.6	29.6	6.1	0.9	0.9	-	2,266
高校生(15～17歳)	97	4.0	19.8	37.3	15.1	0.8	-	5,072

Q. 子どものお年玉をあげていますか

	回答者数 (人)	あげている (%)	あげていない (%)
全体	521	73.7	26.3
小学生(6~11歳)	280	72.9	27.1
中学生(12~14歳)	115	73.9	26.1
高校生(15~17歳)	126	75.4	24.6

Q. 子どもにお年玉をいくらあげていますか

	回答者数 (人)	0円 (%)	~1千円 (%)	~3千円 (%)	~5千円 (%)	~1万円 (%)	~2万円 (%)	2万円超 (%)	平均 (円)
全体	384	26.3	7.5	14.0	16.9	24.2	7.9	3.3	8,697
小学生(6~11歳)	204	27.1	11.4	20.0	15.0	17.5	6.4	2.5	7,455
中学生(12~14歳)	85	26.1	3.5	11.3	22.6	26.1	7.0	3.5	8,752
高校生(15~17歳)	95	24.6	2.4	3.2	15.9	37.3	11.9	4.8	11,313

1. 家計の管理とおこづかい
 (4) 夫婦の家計管理

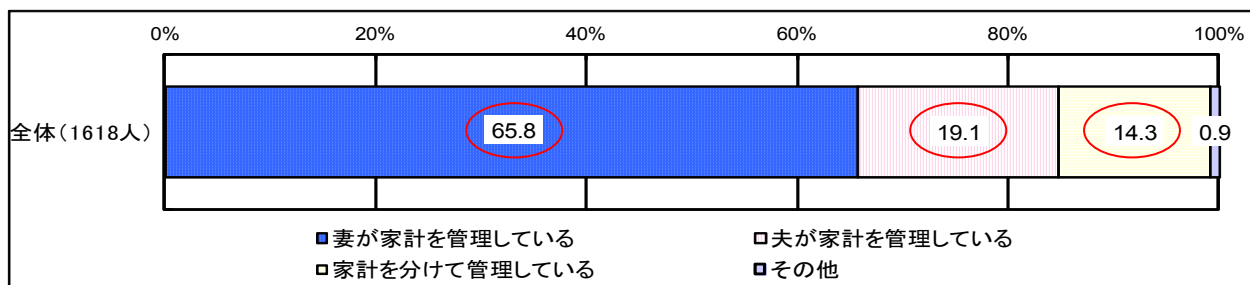
仕事も家庭も互いに自立！？
 フルタイムの共働き夫婦の約3割が家計を別々に管理！

○夫婦の家計管理方法について聞いてみました。

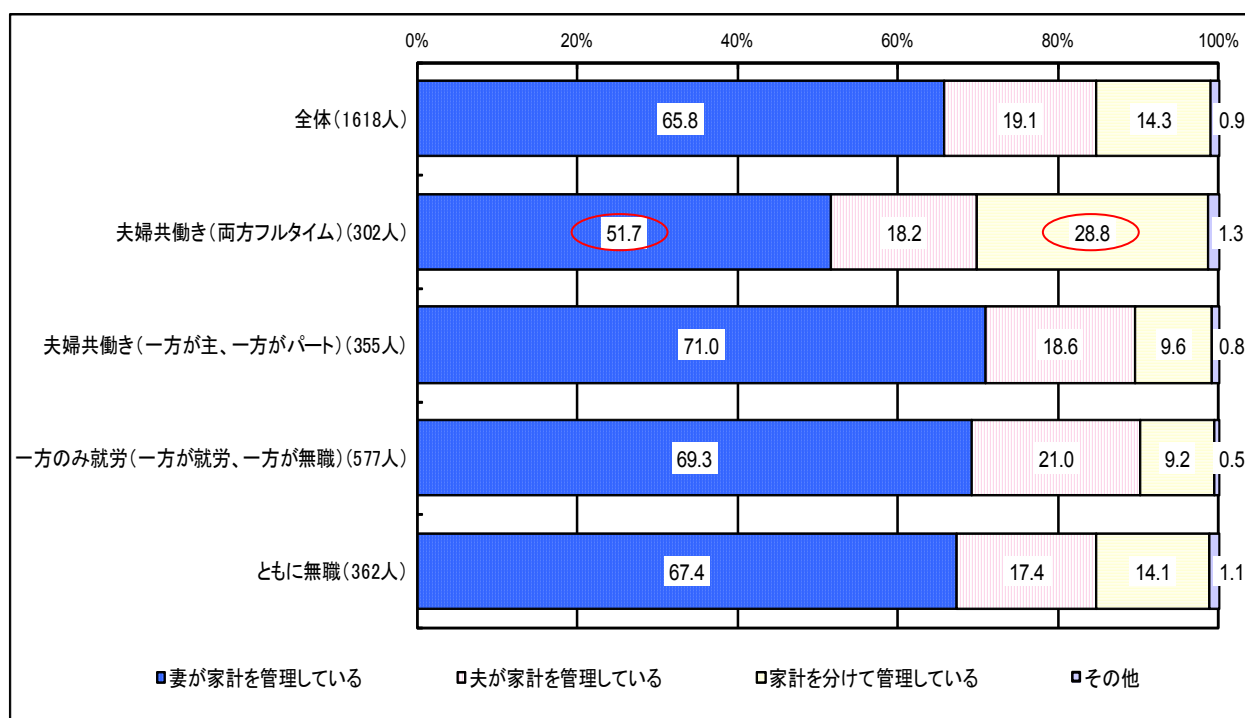
○「妻が家計を管理している」(65.8%)の回答が、「夫が家計を管理している」(19.1%)、「家計を分けて管理している」(14.3%)を大きく上回りました。家計の財務大臣の座は、女性が握りつづけている傾向があるようです。

○夫婦の働き方別にみると、「夫婦共働き(両方フルタイム)」の夫婦は、「妻が家計を管理している」が51.7%にとどまる一方、「家計を分けて管理している」が28.8%と高い割合となりました。社会における女性の活躍が推進されている昨今、家計の男女共同参画が進展していくことが予想されます。

Q. 家計の管理は、どちらが行なっていますか



【家計の管理の詳細(働き方別)】



2. 貯蓄とへそくり

(1) 貯蓄額と貯蓄の目的

貯蓄額でも世代格差が！
約2割が貯蓄額0円！ 貯蓄額は、平均「1, 274万円」！

○世帯の貯蓄額と貯蓄の目的について聞いてみました。

○貯蓄額の平均は、「1, 274万円」となりました。内訳は、「0円」(18.8%)がトップ、次いで「100万円～300万円未満」(15.9%)、「500万円～1000万円未満」(15.6%)の順になりました。約2割の世帯が貯蓄額「0円」という結果となり、日々の生活で精一杯で、貯蓄する余裕がない家庭も多いようです。

○また、貯蓄の目的については、「将来のため」(64.4%)がトップ、次いで、「いざという時のため」(64.3%)、「子どもの教育資金のため」(26.9%)という結果になりました。

○世代別にみると、20代～40代は、「子どもの教育資金のため」が全体と比較して高く、「子育て世代」は、教育資金の準備を重視しているようです。全体トップの「将来のため」は60代・70代でも非常に高く、将来の年金制度等の社会保障制度への不安を反映しているのかもしれませんが。

Q. 世帯での貯蓄はいくらありますか (実額回答)

	回答者数 (人)	0円 (%)	1円～100万円未満 (%)	100万円～300万円未満 (%)	300万円～500万円未満 (%)	500万円～1000万円未満 (%)	1000万円～1500万円未満 (%)	1500万円～2000万円未満 (%)	2000万円～3000万円未満 (%)	3000万円～5000万円未満 (%)	5000万円以上 (%)	平均 (万円)
全体	1618	18.8	7.8	15.9	9.0	15.6	9.5	3.1	6.8	6.4	7.1	1,274
男性計	807	18.8	6.4	15.2	9.4	17.0	10.7	3.0	6.9	6.6	5.9	1,252
20代	134	14.2	14.9	24.6	16.4	16.4	9.0	1.5	0.7	0.7	1.5	537
30代	136	14.7	10.3	26.5	11.0	18.4	8.1	0.7	5.1	2.2	2.9	864
40代	135	22.2	7.4	15.6	8.9	23.0	8.1	6.7	5.2	2.2	0.7	736
50代	134	20.9	3.0	11.9	11.2	16.4	11.2	2.2	6.7	8.2	8.2	1,351
60代	133	24.1	1.5	9.8	3.0	13.5	12.8	5.3	9.8	9.0	11.3	1,853
70代	135	17.0	1.5	3.0	5.9	14.1	14.8	1.5	14.1	17.0	11.1	2,181
女性計	811	18.7	9.1	16.6	8.6	14.2	8.3	3.2	6.7	6.3	8.3	1,296
20代	134	19.4	24.6	28.4	10.4	9.7	3.7	-	1.5	0.7	1.5	471
30代	134	18.7	15.7	23.1	11.9	17.2	6.7	3.0	1.5	0.7	1.5	516
40代	137	20.4	5.1	17.5	10.9	18.2	10.9	2.9	8.8	2.2	2.9	830
50代	136	21.3	5.1	14.7	4.4	16.9	11.0	2.9	9.6	5.9	8.1	1,384
60代	132	18.9	4.5	7.6	6.1	13.6	9.1	3.8	6.1	16.7	13.6	1,842
70代	138	13.8	-	8.7	8.0	9.4	8.0	6.5	12.3	11.6	21.7	2,707

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

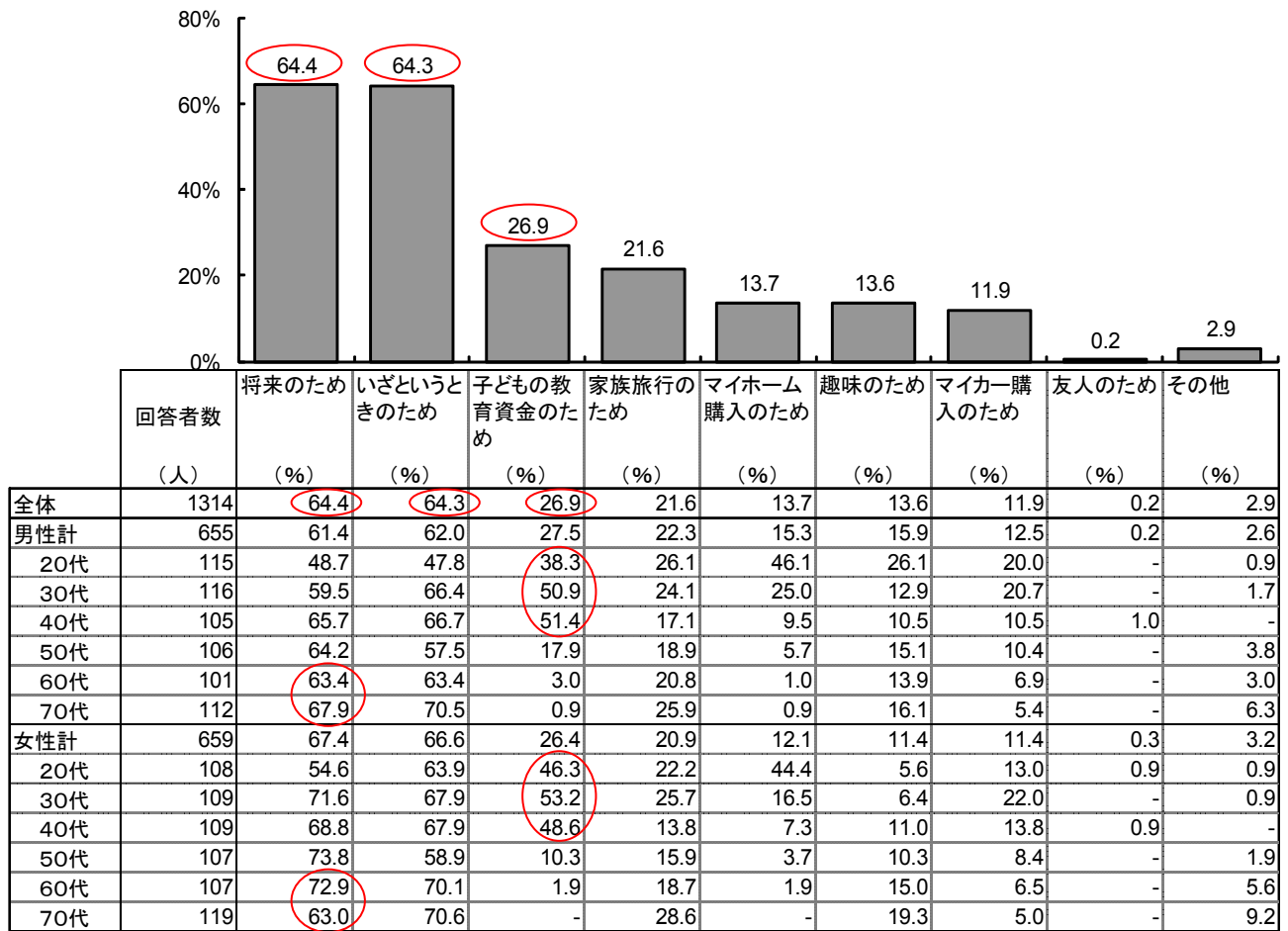
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●世帯の貯蓄額について

事前に予想された傾向ではありますが、貯蓄額は世代による格差が大きいです。男女とも20代、30代は5割以上が300万円未満で、20代女性に限れば7割以上と、若年世代は生活に余裕がないようです。一方、70代は3割前後が3,000万円以上と答えています。なかでも70代女性は2割強が5,000万円以上と答えており、一人あたりの平均貯蓄額も2,707万円と、70代男性の2,181万円を大きく上回っています。こうした層の購買意欲にいかに関与させるかが、個人消費活性化の鍵を握っていると言えます。

Q. 貯蓄の目的はなんですか（複数回答）



2. 貯蓄とへそくり

(2) 貯蓄の方法

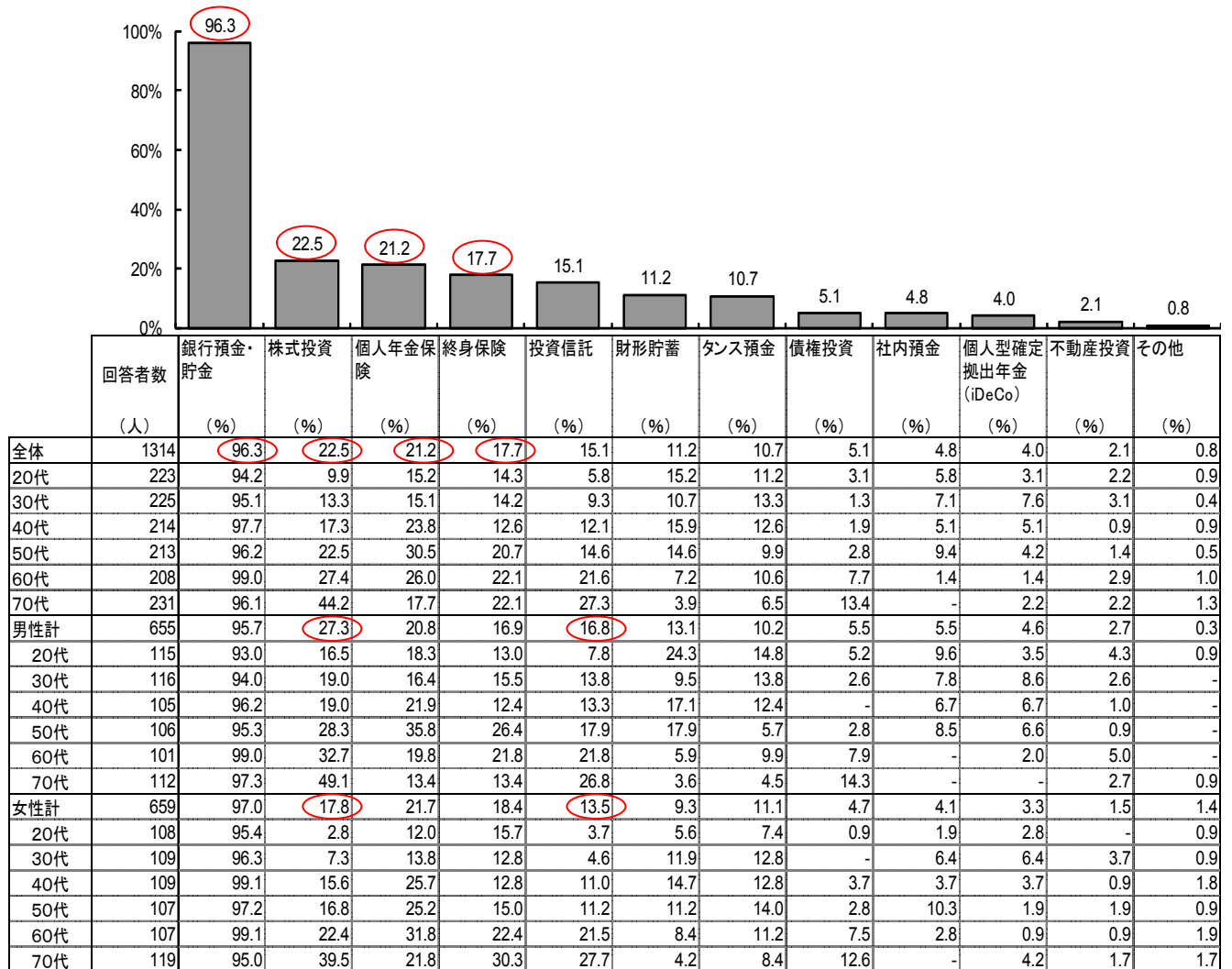
投資への意識は低い！？貯蓄方法は、「銀行預金・貯金」が大半！

○貯蓄の方法について聞いてみました。

○「銀行預金・貯金」(96.3%)がトップ、次いで「株式投資」(22.5%)、「個人年金保険」(21.2%)、「終身保険」(17.7%)と続いています。政府は2014年に「少額投資非課税制度(NISA)」を導入するなど、貯蓄から投資への流れを推進していますが、地政学リスクの高まり等、先行き不透明な市場環境のなか、依然として、「銀行預金・貯金」が圧倒的に高い結果となりました。

○男女別にみると、男性は、「株式投資」(27.3%)、「投資信託」(16.8%)等の投資商品の割合が、女性と比較して高く、リスクを選択する傾向がみられました。

Q. 貯蓄の方法はなんですか(複数回答)



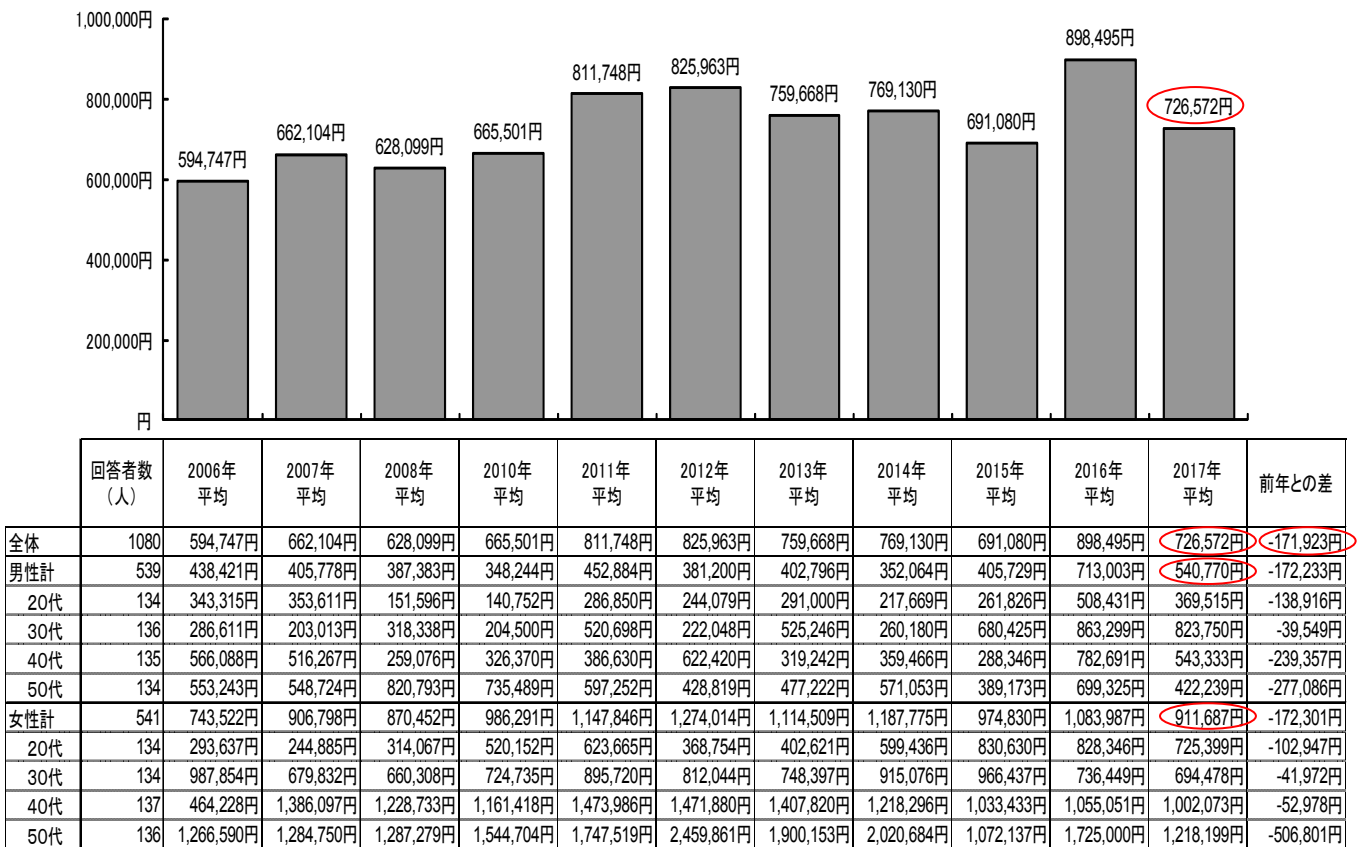
2. 貯蓄とへそくり

(3) へそくり金額とへそくりの目的

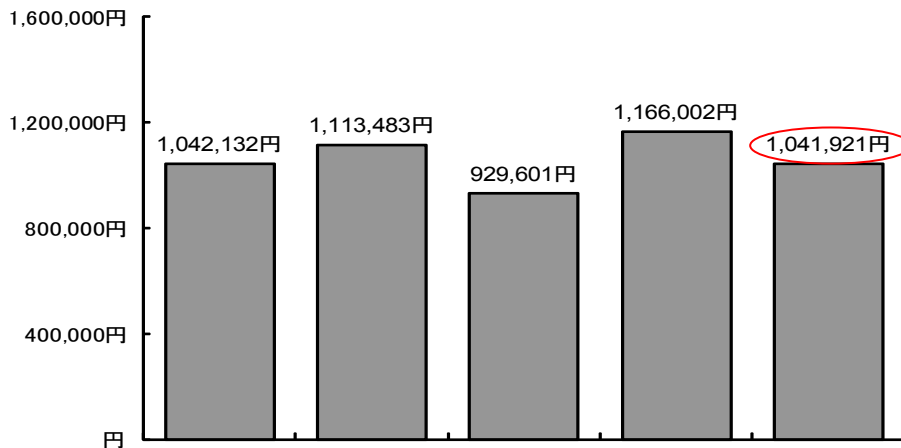
へそくり金額は、全体で約17万円の減少！
妻のへそくり金額は、夫の約1.7倍！ 家計を管理する女性が多く貯めている結果に！

- 夫婦のへそくり（配偶者に内緒にしているお金）について聞いてみました。
- 今年のへそくり金額は20代～50代平均で「726,572円」と、前年から約17万円減少しました。
- また、2013年からは60代・70代のへそくり金額についても調査を実施していますが、20代～70代の平均は、「1,041,921円」と、こちらも前年から約12万円の減少となりました。
- 夫婦別では、夫が「540,770円」に対し、妻は「911,687円」と夫の約1.7倍近く貯めていることがわかりました。妻が家計を管理する家庭が多いことも影響しているのかもしれませんが。
- 使用目的としては、「いざというときのため」（70.9%）がトップ、次いで、「趣味のため」（38.8%）、「将来のため」（23.8%）という結果となりました。

Q. へそくりはいくらありますか（金額回答）※20代～50代調べ（20代～70代はP14参照）

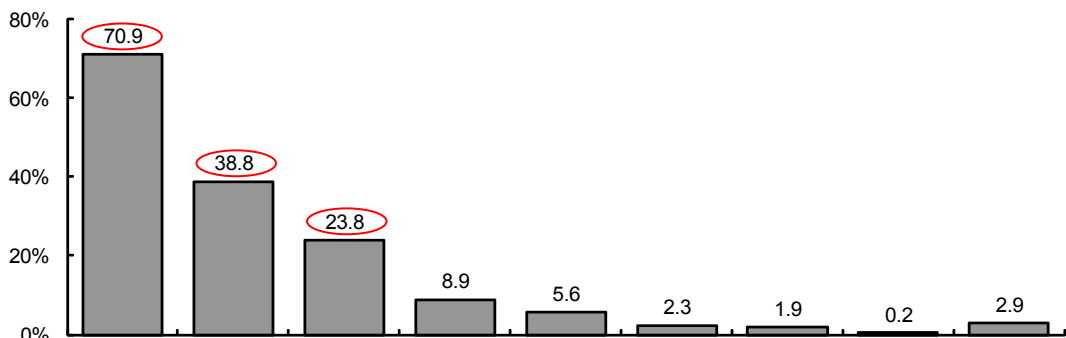


Q. へそくりはいくらありますか（金額回答）※20代～70代調べ



	回答者数 (人)	2013年 平均	2014年 平均	2015年 平均	2016年 平均	2017年 平均	前年との差
全体	1618	1,042,132円	1,113,483円	929,601円	1,166,002円	1,041,921円	-124,081円
男性計	807	620,569円	568,695円	589,058円	859,888円	735,384円	-124,504円
20代	134	291,000円	217,669円	261,826円	508,431円	369,515円	-138,916円
30代	136	525,246円	260,180円	680,425円	863,299円	823,750円	-39,549円
40代	135	319,242円	359,466円	288,346円	782,691円	543,333円	-239,357円
50代	134	477,222円	571,053円	389,173円	699,325円	422,239円	-277,086円
60代	133	1,081,061円	1,044,737円	1,328,712円	1,086,008円	1,072,180円	-13,827円
70代	135	1,043,810円	961,832円	588,284円	1,226,791円	1,180,593円	-46,198円
女性計	811	1,463,157円	1,657,585円	1,268,446円	1,471,737円	1,346,945円	-124,792円
20代	134	402,621円	599,436円	830,630円	828,346円	725,399円	-102,947円
30代	134	748,397円	915,076円	966,437円	736,449円	694,478円	-41,972円
40代	137	1,407,820円	1,218,296円	1,033,433円	1,055,051円	1,002,073円	-52,978円
50代	136	1,900,153円	2,020,684円	1,072,137円	1,725,000円	1,218,199円	-506,801円
60代	132	2,079,117円	2,507,408円	1,384,148円	2,699,553円	2,132,955円	-566,598円
70代	138	2,284,252円	2,667,689円	2,340,152円	1,806,889円	2,301,449円	494,560円

Q. へそくりの目的はなんですか



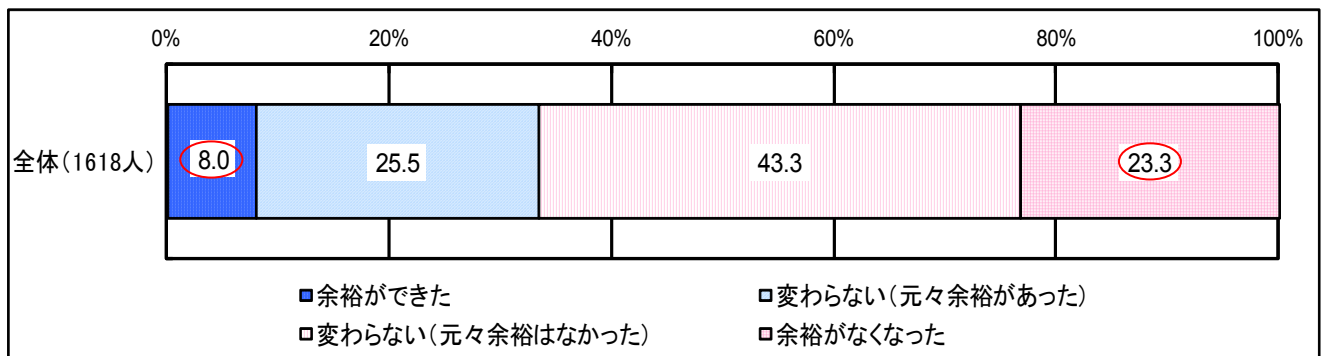
	回答者数 (人)	いざという ときのため (%)	趣味のため (%)	将来のため (%)	家族旅行の ため (%)	子どもの教 育資金のた め (%)	マイカー購 入のため (%)	マイホーム 購入のため (%)	友人のため (%)	その他 (%)
全体	516	70.9	38.8	23.8	8.9	5.6	2.3	1.9	0.2	2.9
男性計	266	60.2	50.0	16.5	10.5	6.4	3.4	3.0	-	3.0
20代	57	50.9	45.6	10.5	10.5	7.0	3.5	10.5	-	-
30代	49	57.1	36.7	18.4	10.2	16.3	6.1	4.1	-	6.1
40代	51	74.5	60.8	11.8	7.8	5.9	-	-	-	-
50代	38	57.9	44.7	18.4	10.5	2.6	10.5	-	-	2.6
60代	31	51.6	61.3	22.6	6.5	3.2	-	-	-	-
70代	40	67.5	55.0	22.5	17.5	-	-	-	-	10.0
女性計	250	82.4	26.8	31.6	7.2	4.8	1.2	0.8	0.4	2.8
20代	49	79.6	20.4	24.5	4.1	10.2	4.1	-	-	4.1
30代	29	93.1	20.7	34.5	13.8	13.8	-	3.4	-	-
40代	37	81.1	18.9	27.0	-	5.4	-	-	-	-
50代	42	81.0	23.8	47.6	4.8	-	2.4	-	-	2.4
60代	43	83.7	37.2	37.2	11.6	-	-	2.3	-	-
70代	50	80.0	36.0	22.0	10.0	2.0	-	-	2.0	8.0

3. お金に関する意識
 (1) 家計の状況と理由

実感なき景気回復！？家計に余裕ができたと答えた人はわずか8.0%！

- 昨年と比較し、自由に使えるお金に余裕ができたかを聞いてみました。
- 「余裕ができた」と回答した人がわずか8.0%に留まる一方、「余裕がなくなった」と回答した人は23.3%と、「余裕ができた」の約3倍という結果となりました。2017年3月に内閣府が発表したGDP統計においても、企業設備投資の状況が上向く一方、家計消費の上昇は鈍い結果となっています。一般生活者に景気回復の実感は薄く、むしろ「余裕がなくなった」人が多いようです。
- 「余裕がなくなった」理由は、「日用品・食料品への支出が増えたため」(38.2%)がトップとなり、原油高や円安による日用品の値上げや野菜価格の高騰による食料品値上げ等により、支出が増えたことの影響が大きいようです。
- 「余裕ができた」理由は、「給料が上がったため」(45.0%)がトップとなり、安倍政権が推進する賃上げの効果を一部の方は実感しているようです。

Q. 昨年と比較し、「(自由に使える) お金」に余裕ができましたか



～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一

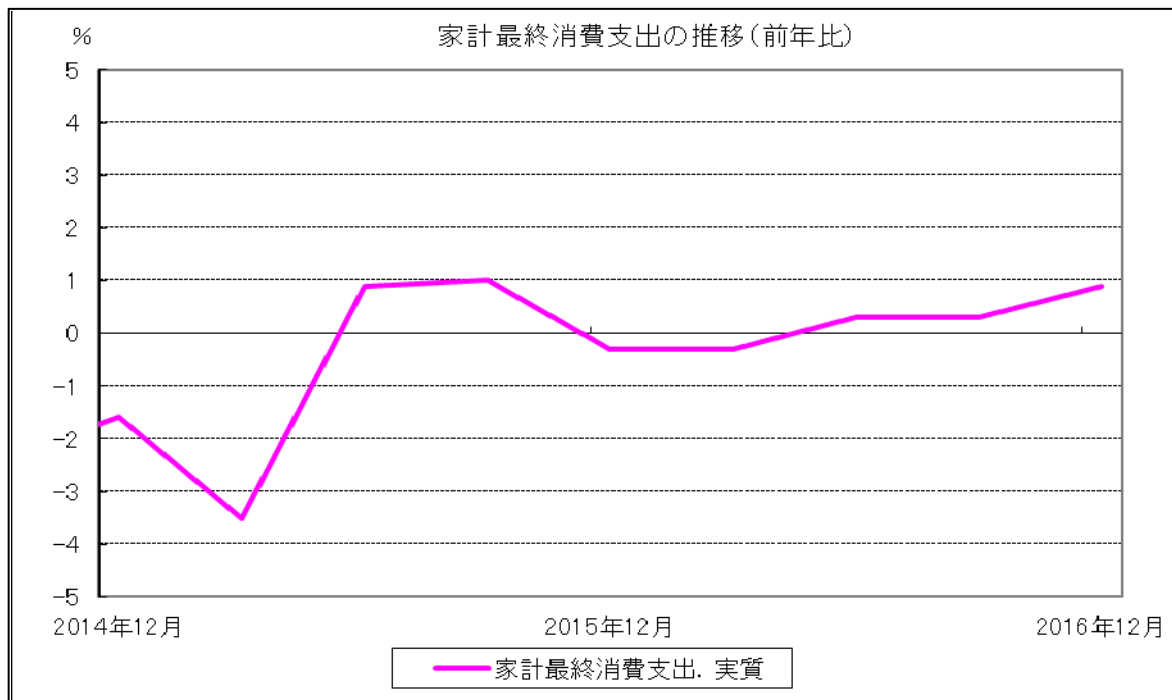


●家計の状況について

昨年に比し、家計に「余裕ができた」と回答した人がわずか8.0%にとどまったことは、足元の個人消費が伸び悩んでいる背景を端的に示しています。賃金の伸び悩みもさることながら、アンケート結果に出ている通り、身の回り品の値上げが大きく影響しているようです。実際、このところガソリンや灯油価格が上昇基調にあるほか、トランプ政権誕生後の円安が輸入品価格全般の押し上げ圧力となっています。これに、冬場の野菜価格の高騰が追い打ちをかけました。これらの物価は下がる時もありますが、持続的な家計マインド改善のためにはやはり賃金の上昇が必要です。

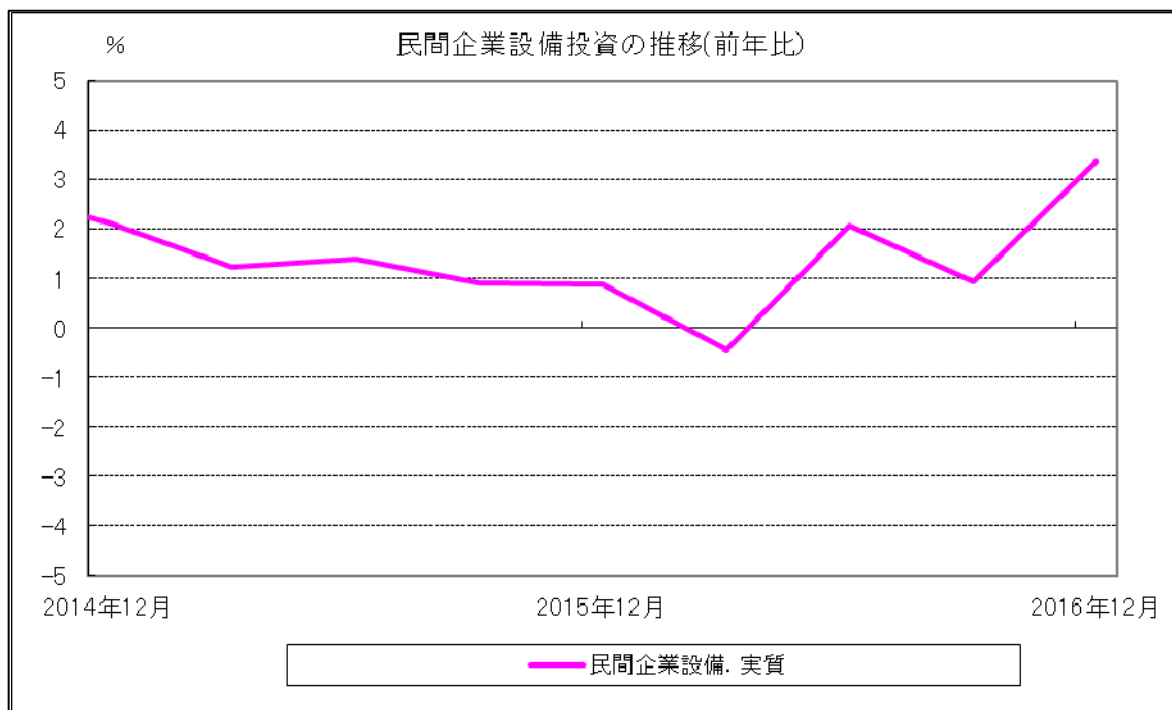
※参考 内閣府発表GDP統計

1. 家計最終消費支出の推移（前年比）



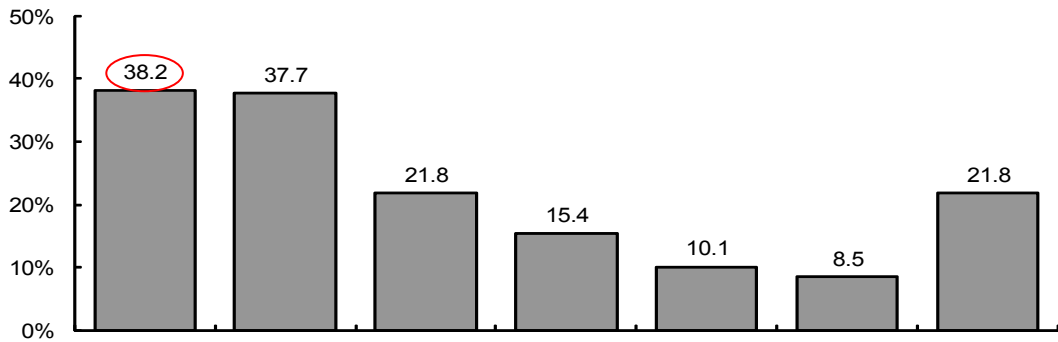
（出所）内閣府「国民経済計算」

2. 民間企業設備投資の推移（前年比）



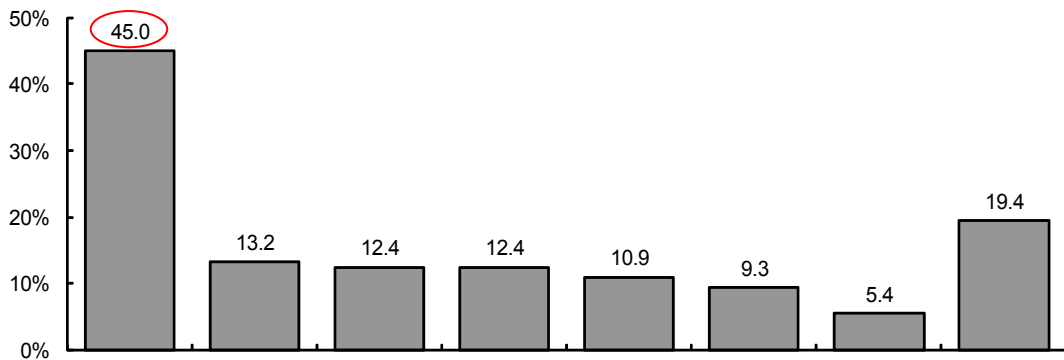
（出所）内閣府「国民経済計算」

【余裕がなくなった理由】



	回答者数 (人)	日用品・食料品への支出が増えたため (%)	給料が下がったため (%)	電気・ガス料金の支出が増えたため (%)	ガソリン料金の支出が増えたため (%)	ローンの支払が始まったため (%)	円安・株高等で損(投資・業績等)がでたため (%)	その他 (%)
全体	377	38.2	37.7	21.8	15.4	10.1	8.5	21.8
男性計	171	34.5	41.5	21.6	20.5	8.2	11.7	16.4
20代	31	25.8	45.2	22.6	12.9	19.4	16.1	16.1
30代	31	48.4	38.7	25.8	29.0	12.9	16.1	3.2
40代	23	43.5	39.1	21.7	26.1	8.7	17.4	8.7
50代	30	26.7	60.0	23.3	13.3	6.7	10.0	13.3
60代	25	32.0	44.0	24.0	20.0	-	8.0	24.0
70代	31	32.3	22.6	12.9	22.6	-	3.2	32.3
女性計	206	41.3	34.5	21.8	11.2	11.7	5.8	26.2
20代	47	25.5	31.9	19.1	12.8	23.4	2.1	31.9
30代	38	60.5	23.7	21.1	18.4	15.8	2.6	23.7
40代	36	36.1	36.1	13.9	5.6	8.3	2.8	38.9
50代	29	34.5	48.3	20.7	10.3	6.9	10.3	24.1
60代	31	41.9	45.2	25.8	6.5	3.2	9.7	12.9
70代	25	56.0	24.0	36.0	12.0	4.0	12.0	20.0

【余裕ができた理由】



	回答者数 (人)	給料が上がったため (%)	ローンの支払が終わったため (%)	日用品・食料品への支出が減ったため (%)	副業を始めたため (%)	円安・株高等で利益(投資・業績等)がでたため (%)	ガソリン料金の支出が減ったため (%)	電気・ガス料金の支出が減ったため (%)	その他 (%)
全体	129	45.0	13.2	12.4	12.4	10.9	9.3	5.4	19.4
男性計	55	45.5	14.5	14.5	20.0	18.2	14.5	7.3	10.9
20代	19	63.2	-	15.8	15.8	15.8	15.8	15.8	5.3
30代	9	55.6	11.1	22.2	22.2	22.2	11.1	-	11.1
40代	6	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	-	-
50代	14	42.9	42.9	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1	14.3
60代	2	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-
70代	5	-	-	-	20.0	40.0	40.0	-	40.0
女性計	74	44.6	12.2	10.8	6.8	5.4	5.4	4.1	25.7
20代	13	84.6	-	15.4	7.7	-	-	7.7	-
30代	11	63.6	9.1	9.1	9.1	-	-	-	18.2
40代	12	41.7	8.3	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0
50代	22	36.4	13.6	9.1	4.5	4.5	4.5	-	36.4
60代	10	20.0	20.0	-	-	10.0	10.0	-	50.0
70代	6	-	33.3	33.3	-	16.7	16.7	16.7	16.7

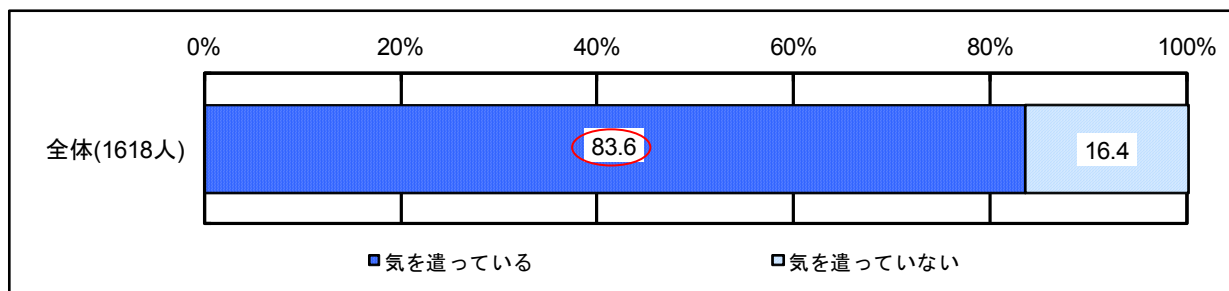
3. お金に関する意識

(2) 節約意識と節約方法

**節約意識を持っている人は全体の約8割！ 節約方法は、手軽にできることを中心に！
電力会社の変更や携帯電話会社の変更は、それぞれ約1割にとどまる！**

- 節約意識と節約方法について聞いてみました。
- 節約に対する意識では、節約に「気を遣っている」が83.6%と節約意識をもっている人が、圧倒的に多い結果となりました。
- 男女別では、男性が81.4%に対し、女性は85.8%と、節約にたいして女性の方が意識が高い結果となりました。家計を握ることが多い女性は、日々の節約に意識が高いようです。
- 節約方法では、「電気をこまめに消す」(75.4%)がトップ、「冷暖房の温度を調整する」(55.3%)が続きました。節約方法は、手軽にできることが中心であり、自由化が話題となった電力会社の変更や番号ポータビリティを活用した携帯電話会社の変更は、まだまだ約1割にとどまっています。
- 男女別では、男性は、「飲み会を減らしている」が女性と比較し、高い結果となりました。一方、女性は、「カードポイントを活用している」、「クーポンを活用している」等のコツコツ実践する節約が男性と比較し、高い結果となりました。

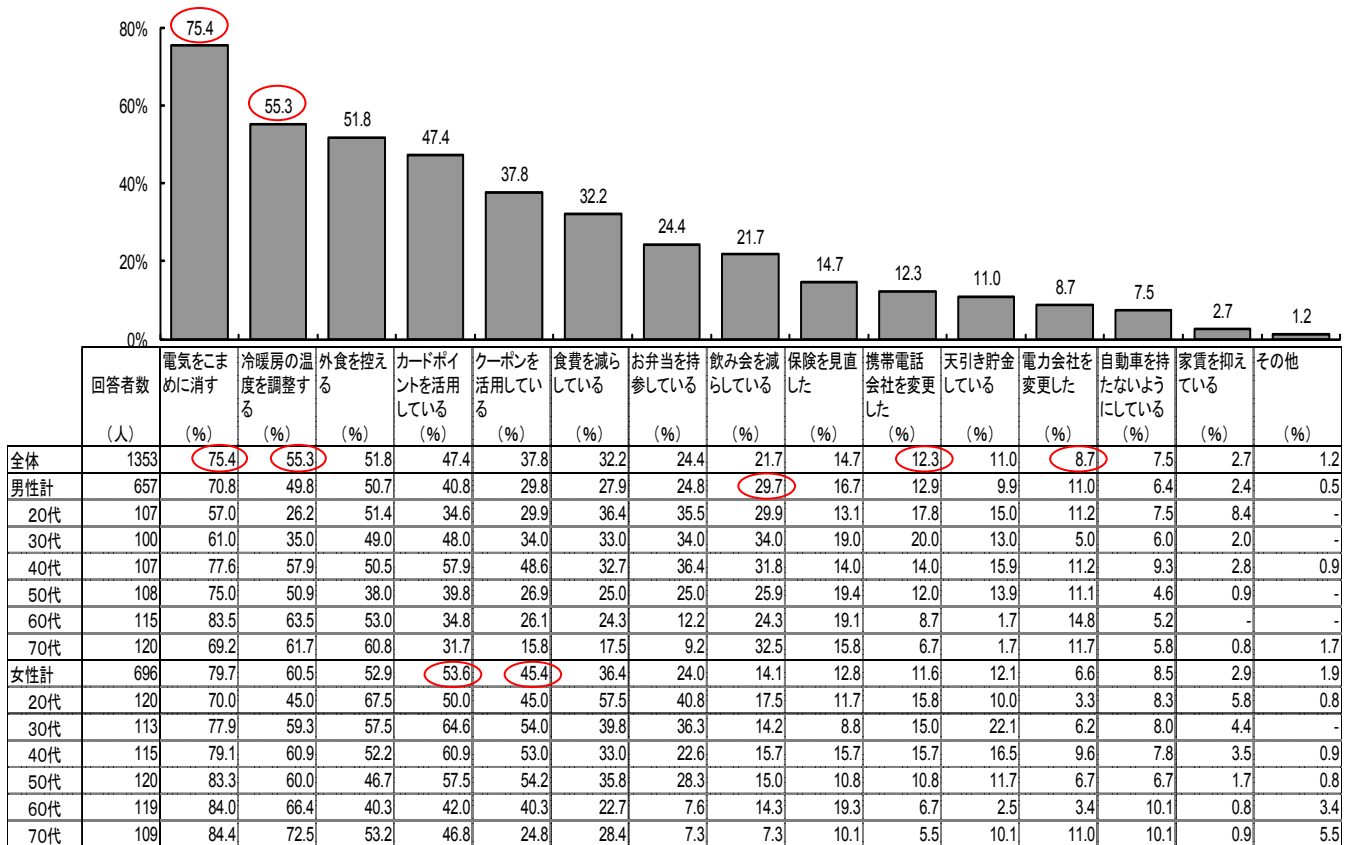
Q. 日常生活で節約に気を遣っていますか



【節約意識の詳細】

	回答者数 (人)	節約に 気を遣っている (%)	節約に 気を遣っていない (%)
全体	1618	83.6	16.4
男性計	807	81.4	18.6
20代	134	79.9	20.1
30代	136	73.5	26.5
40代	135	79.3	20.7
50代	134	80.6	19.4
60代	133	86.5	13.5
70代	135	88.9	11.1
女性計	811	85.8	14.2
20代	134	89.6	10.4
30代	134	84.3	15.7
40代	137	83.9	16.1
50代	136	88.2	11.8
60代	132	90.2	9.8
70代	138	79.0	21.0

Q. どのような節約を実施していますか

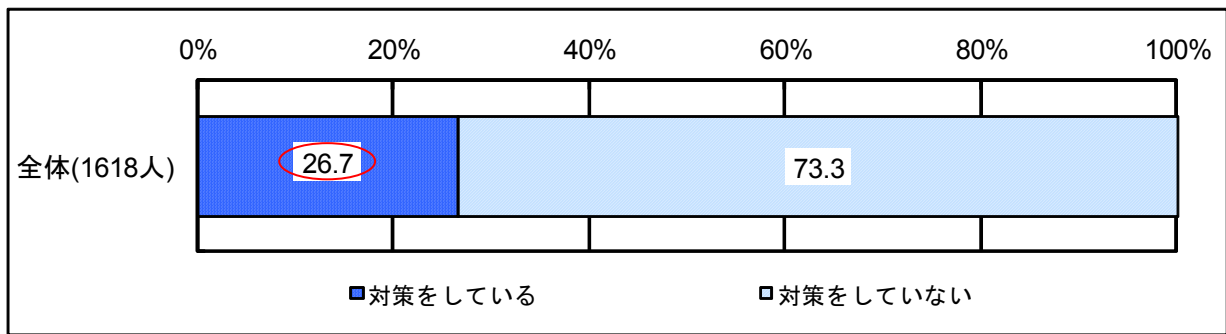


3. お金に関する意識
 (3) 節税意識と節税方法

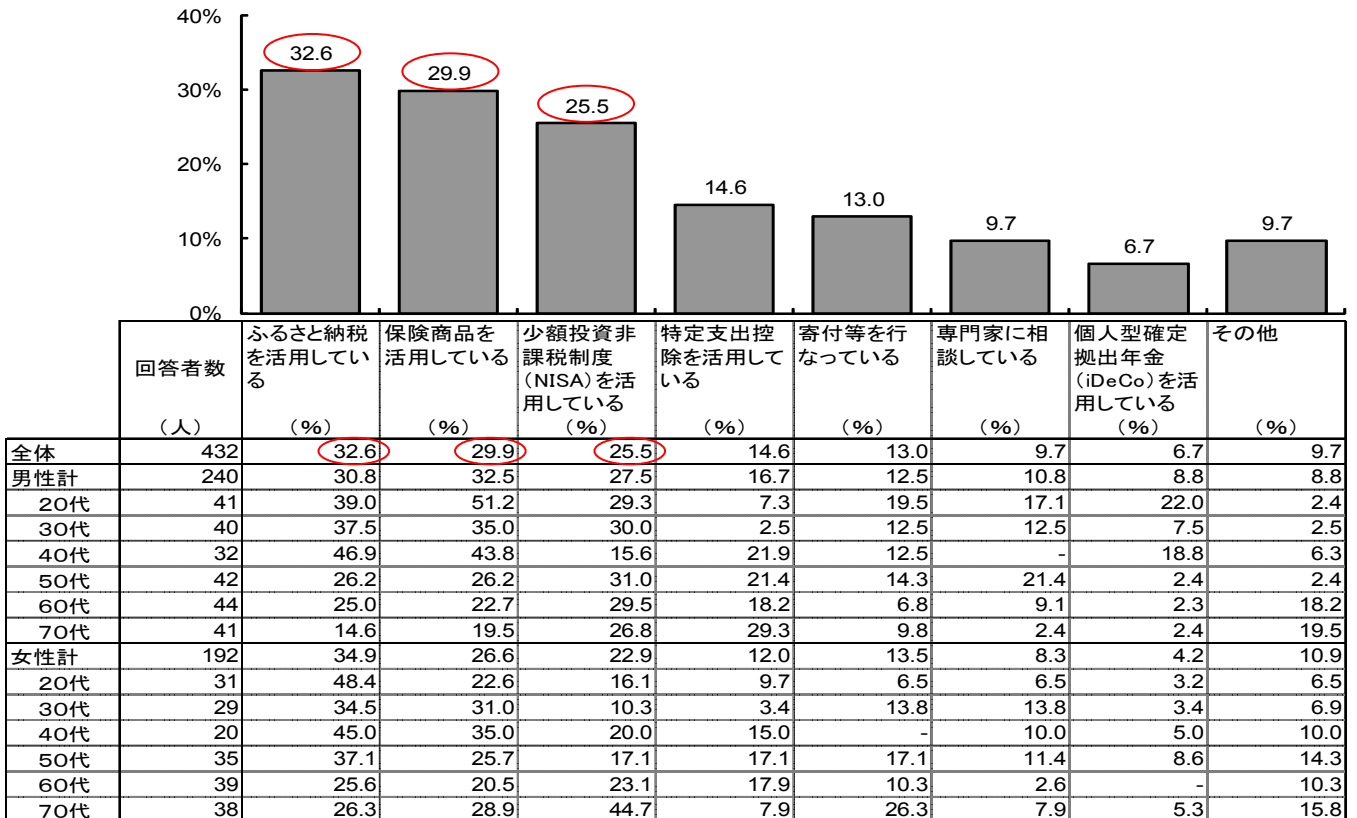
節税対策には、ふるさと納税が人気！ 保険商品やNISA等も人気！

- 節税意識と節税方法について聞いてみました。
- 「節税対策をしている」と回答した人は26.7%と、節税意識を持っている人は、約4人に1人という結果となりました。
- 実施している節税対策では、「ふるさと納税を活用している」(32.6%)でトップとなりました。自治体のなかにはふるさと納税の返礼品を中止する動きがある等、ふるさと納税のあり方が話題となっていますが、気軽にできる節税対策として、人気が続いているようです。また、「保険商品を活用している」(29.9%)、「少額投資非課税制度(NISA)を活用している」(25.5%)等も人気が高い結果となりました。

Q. 節税対策を実施していますか



Q. どのような節税対策を実施していますか



3. お金に関する意識

(4) 持ち歩く金額

持ち歩く金額にも男女間の差が！ 持ち歩く金額平均は「15,591円」！

○ふだん持ち歩く金額について聞いてみました。

○持ち歩く金額は、「5千円超～1万円」（26.8%）が最多、「1万円超～2万円」（23.9%）、「3千円超～5千円」（16.3%）と続き、全体平均では、「15,591円」という結果となりました。

○男女別では、男性が平均「17,465円」に対し、女性は平均「13,726円」と、男女で約4千円の違いがありました。男女間の節約意識の差が持ち歩く金額にも表れているのかもしれませんが。

○また、持ち歩く金額が「0円」と答えた人は4.7%、男性では6.2%という結果となりました。クレジットカードやオートチャージ機能付きの交通系ICカード等の普及により、今後はさらに現金を持ち歩かない人が増えていくのかもしれませんが。

Q. ふだん持ち歩く金額はいくらですか

	回答者数 (人)	0円 (%)	0円超 ～3千円 (%)	3千円超 ～5千円 (%)	5千円超 ～1万円 (%)	1万円超 ～2万円 (%)	2万円超 ～3万円 (%)	3万円超 (%)	平均 (円)
全体	1618	4.7	9.6	16.3	26.8	23.9	11.3	7.4	15,591
男性計	807	6.2	9.5	15.1	23.2	21.3	14.3	10.4	17,465
20代	134	6.7	13.4	20.1	23.9	17.2	11.9	6.7	14,235
30代	136	5.9	10.3	22.1	26.5	17.6	8.8	8.8	13,901
40代	135	6.7	9.6	17.8	23.7	20.7	16.3	5.2	15,443
50代	134	6.7	8.2	11.2	21.6	23.1	12.7	16.4	20,705
60代	133	7.5	9.8	10.5	19.5	24.8	18.0	9.8	19,271
70代	135	3.7	5.9	8.9	23.7	24.4	17.8	15.6	21,290
女性計	811	3.2	9.6	17.5	30.5	26.4	8.4	4.4	13,726
20代	134	3.7	17.2	25.4	27.6	18.7	5.2	2.2	10,437
30代	134	5.2	18.7	23.1	24.6	23.9	4.5	-	9,892
40代	137	2.9	10.9	19.0	30.7	19.7	12.4	4.4	14,350
50代	136	4.4	8.1	13.2	33.8	25.7	9.6	5.1	14,110
60代	132	2.3	2.3	14.4	34.1	30.3	11.4	5.3	15,712
70代	138	0.7	0.7	10.1	31.9	39.9	7.2	9.4	17,746

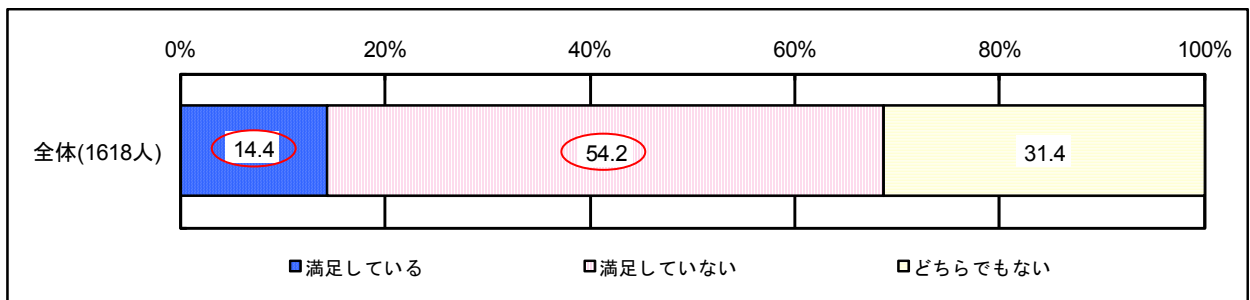
4. 働き方とお金

(1) 給与の満足度と理由

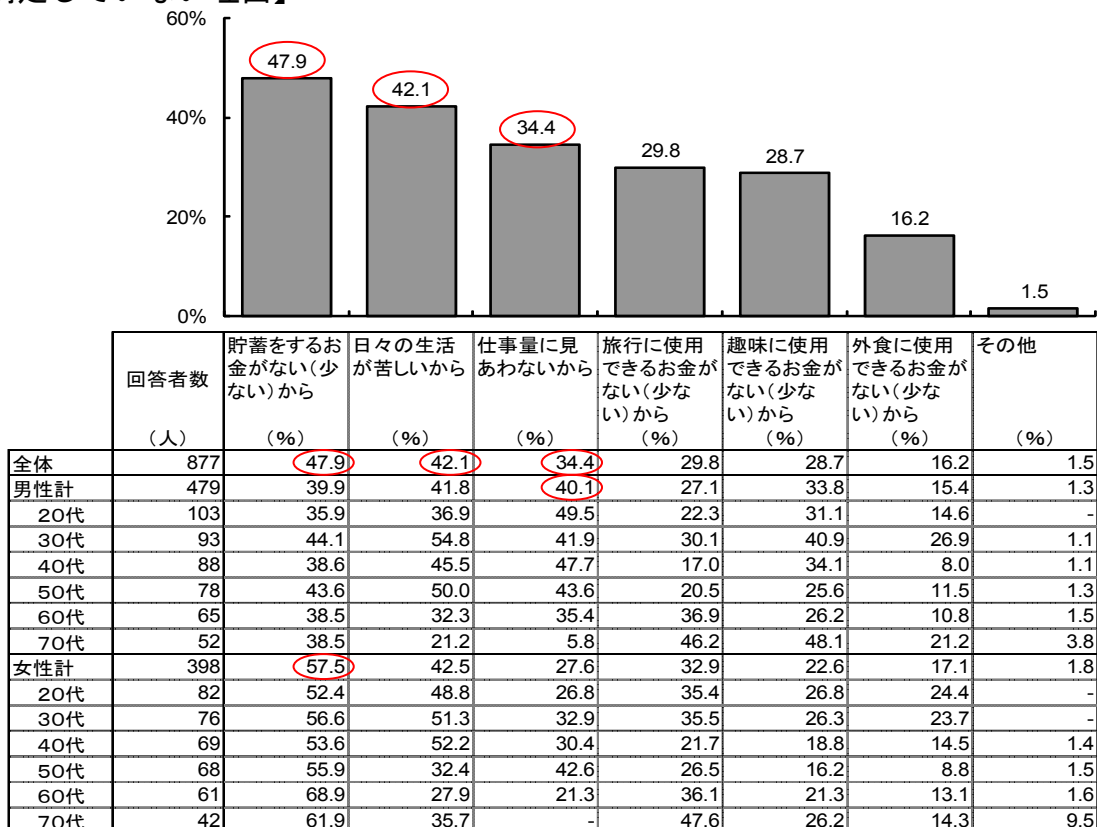
日々の生活で精一杯！？現在の給与に満足している人はわずか14.4%！
貯蓄への意識は強い！給与に満足していない理由は、「貯蓄をするお金がないから」がトップ！

- 現在の給与の満足度とその理由について聞いてみました。
- 現在の給与に「満足している」と回答した人は14.4%にとどまり、「満足していない」と回答した人の54.2%を大きく下回りました。
- 給与に満足していない理由については、「貯蓄をするお金がない(少ない)から」(47.9%)がトップ、「日々の生活が苦しいから」(42.1%)、「仕事量に見合わないから」(34.4%)と続きました。
- 男女別では、男性は、「仕事量に見合わないから」が、女性と比較し高い結果となりました。一方、女性は、「貯蓄をするお金がない(少ない)から」が男性と比較し高い結果となりました。男性は、仕事の対価としての給与水準への不満を多く抱いている一方、女性は給与水準の絶対額に対する不満を抱いているようです。

Q. 現在の給与について満足していますか



【満足していない理由】



4. 働き方とお金

(2) 副業と副業をする理由

低所得層の増加が一因か！？20代男性の約4人に1人が副業をしていると回答！

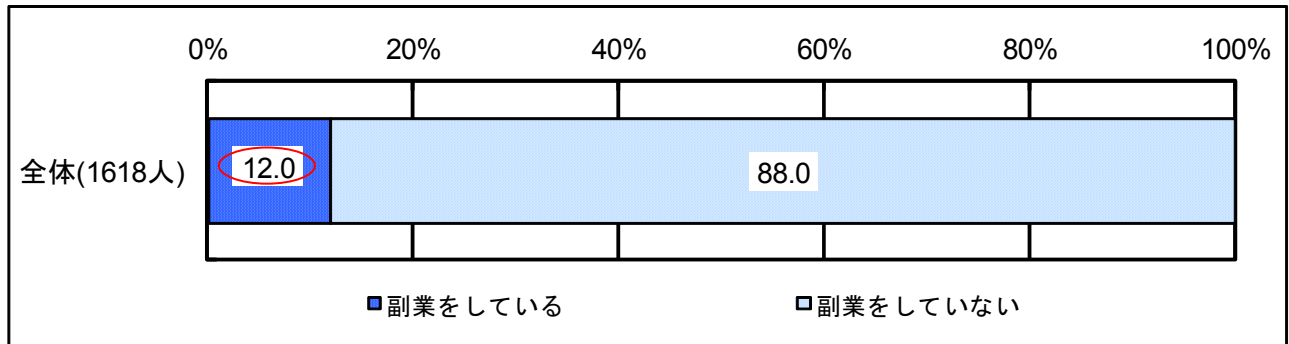
○副業と副業をする理由について聞いてみました。

○「副業をしている」と回答した人は、12.0%となりました。一方、世代別にみると、20代男性は、24.6%、20代女性は、17.9%と平均を大きく上回り、20代男性は、約4人に1人が副業をしているという結果となりました。

○副業をする理由では、「生活をするために必要なため」(41.2%)がトップ、「時間を有効活用するため」(38.7%)、「趣味にお金を使うため」(38.7%)が続きました。低所得層が増加し、生活のために副業をせざるを得ない人が若者中心に増えているのかもしれませんが。

○副業による年収は、「10万円未満」(32.5%)、「30万円未満」(30.9%)が多く、平均で約37万円と、生活に少し余裕を持たせる程度の副業が多いようです。

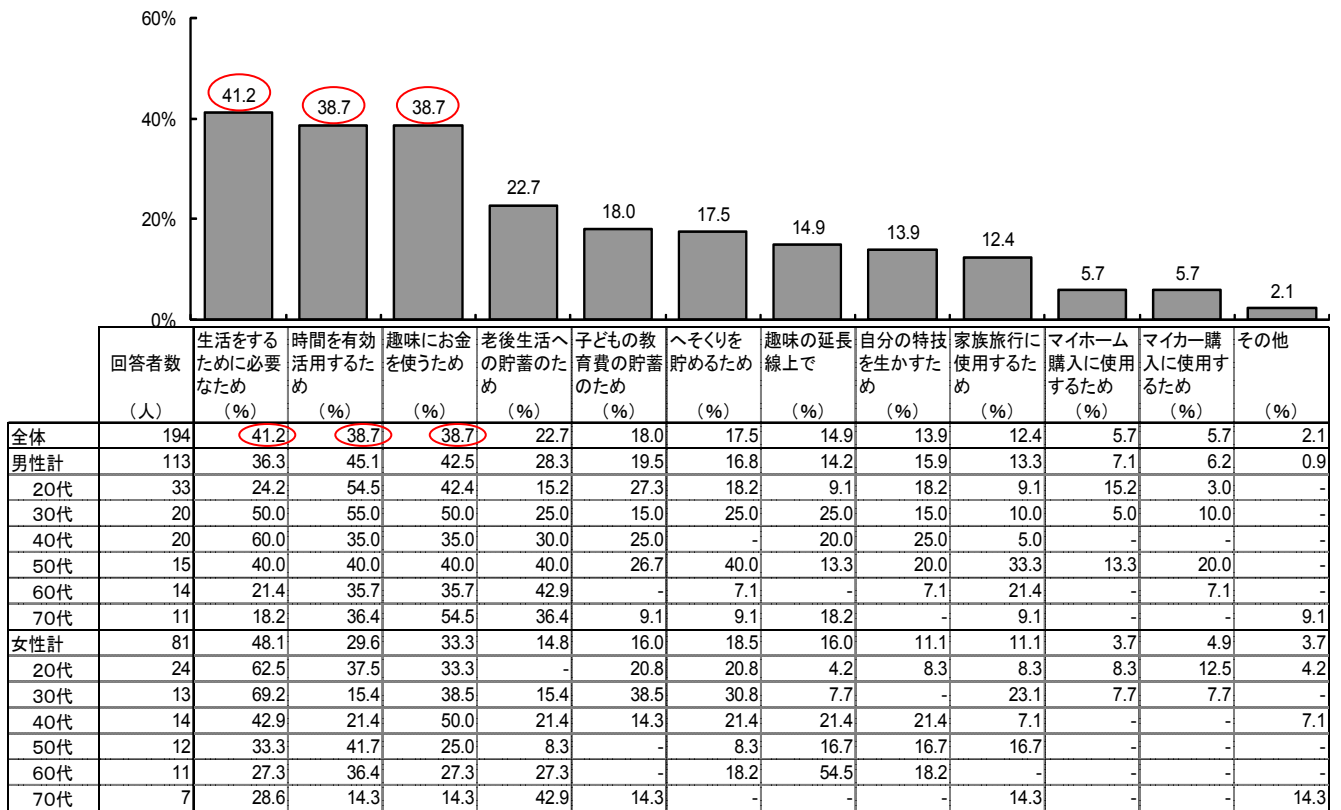
Q. 副業をしていますか



【副業の詳細】

	回答者数 (人)	副業をしている (%)	副業をしていない (%)
全体	1618	12.0	88.0
男性計	807	14.0	86.0
20代	134	24.6	75.4
30代	136	14.7	85.3
40代	135	14.8	85.2
50代	134	11.2	88.8
60代	133	10.5	89.5
70代	135	8.1	91.9
女性計	811	10.0	90.0
20代	134	17.9	82.1
30代	134	9.7	90.3
40代	137	10.2	89.8
50代	136	8.8	91.2
60代	132	8.3	91.7
70代	138	5.1	94.9

Q. 副業をする理由はなんですか



Q. 副業による年間収入はいくらぐらいですか。

	回答者数 (人)	~10万円未満 (%)	10万円~30万円未満 (%)	30万円~50万円未満 (%)	50万円~100万円未満 (%)	100万円以上 (%)	平均 (万円)
全体	194	32.5	30.9	10.3	12.9	13.4	37

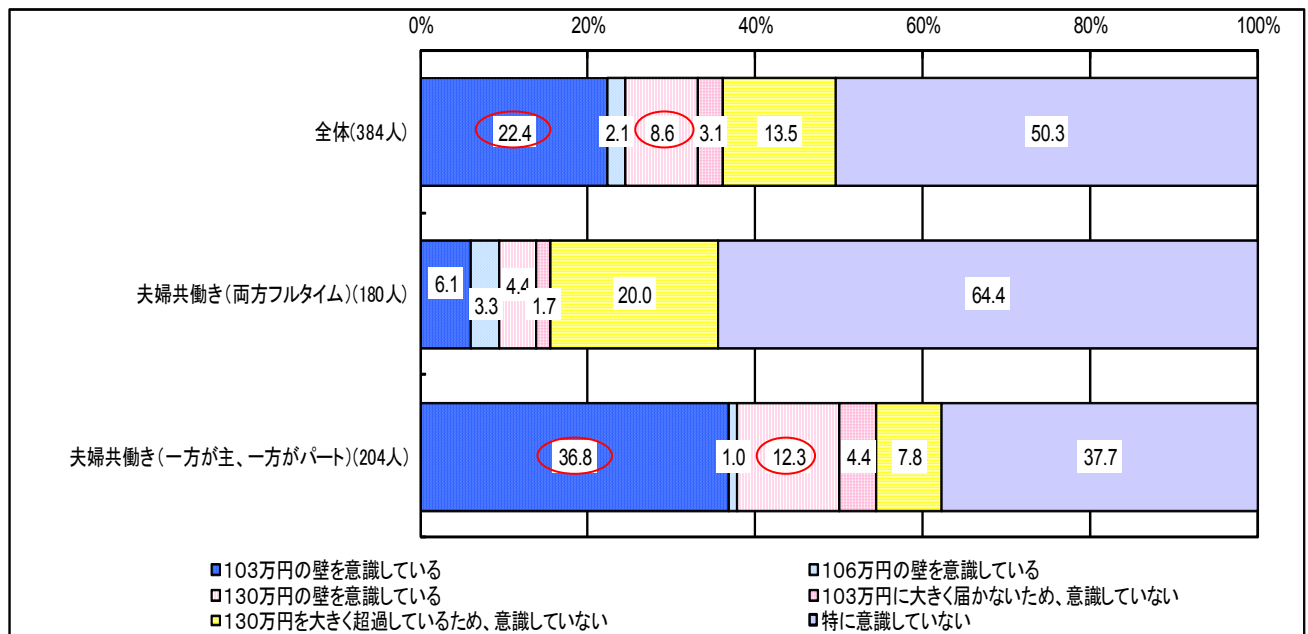
4. 働き方とお金

(3) 夫婦の収入の壁と理想の収入

**「収入の壁」が女性活躍の壁！？「一方がパート」の家庭は、約2人に1人が「収入の壁」を意識！
「収入の壁」がなければ、約200万円の年収を希望！**

- 働く女性に、いわゆる「収入の壁」と理想の収入について聞いてみました。
- 働く女性のうち、「103万円の壁を意識している」と回答した人は、22.4%、「130万円の壁を意識している」と回答した人は、8.6%という結果となりました。約4人に1人が103万円の壁を意識しているということになります。
- また、「一方がパート」の家庭では、「103万円の壁を意識している」(36.8%)、「130万円の壁を意識している」(12.3%)と、あわせると約2人に1人が「収入の壁」を意識して働いていることがわかりました。
- また、「収入の壁」を意識していると回答した人に、「収入の壁」がない場合の希望年収をきいたところ、全体平均「194万円」と、「収入の壁」となる金額と60万円以上の差があることがわかりました。安倍政権は「日本再興戦略」において、女性の活躍推進を掲げていますが、女性のさらなる活躍のためには、やはり「収入の壁」が課題となっているようです。

Q. 103万、106万、130万の壁を意識していますか（女性のみ）



Q. 「103万～130万」の壁がなければ、いくらまで、年収を増加させたいですか

	回答者数 (人)	～150万円 未満 (%)	～200万円 未満 (%)	～300万円 未満 (%)	～500万円 未満 (%)	～1000万 円未満 (%)	1000万円 以上 (%)	平均 (万円)
女性計	100	20.0	37.0	30.0	9.0	4.0	-	194